

## 弓の張り方

今回ご購入いただいた竹弓は、十分に張り込み、調整したものです。ご承知のとおり、竹弓は、天然素材である真竹(まだけ)と櫛(はぜ)で作られており、1張りごとに個性があります。当然のことながら、1張りごとにその取り扱い方は違ってきます。特に、新弓は取り扱い方によって型が変形したり、思わぬ故障を起こすことがあります。

良い弓にするためには、射手の皆様の協力が必要です。竹弓の取り扱い方について、基本的なことをまとめてみましたので、皆様の参考にしていただき、より良い弓へとお導きくださいますようお願い申し上げます。

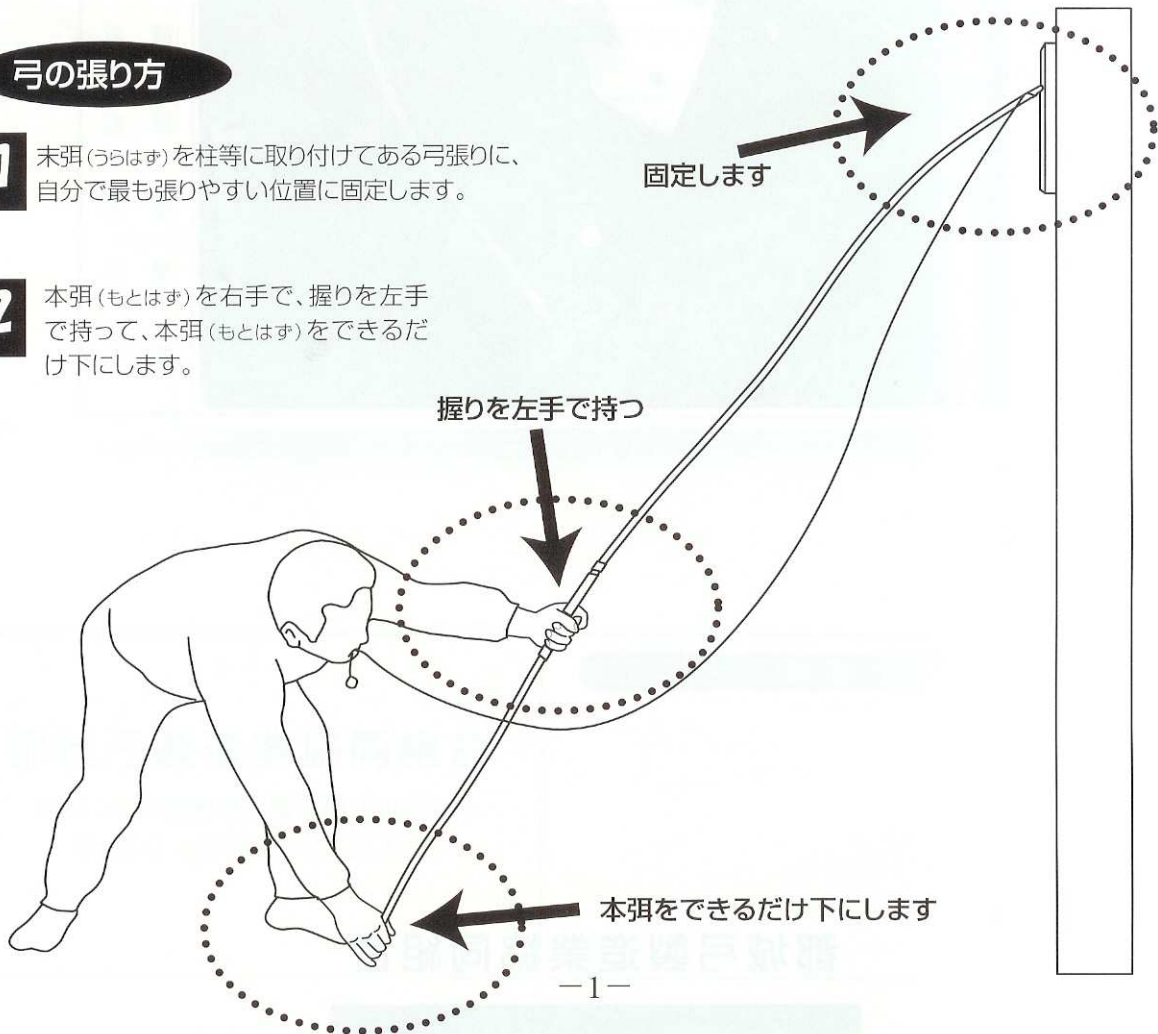
### 購入時の注意

- 新弓をお求めになる場合は、従来の弓より多少強めの弓をお選びください。
- 行射される引き成りに慣らすまでは、
  - ①索引き
  - ②巻わら射の順に少しずつ矢束を伸ばしてください。
- 1週間~10日間すると弓力にも慣れてきますので、その後に行射するようにしてください。
- 行射される場合は、徐々に矢数を増やすようにしてください。

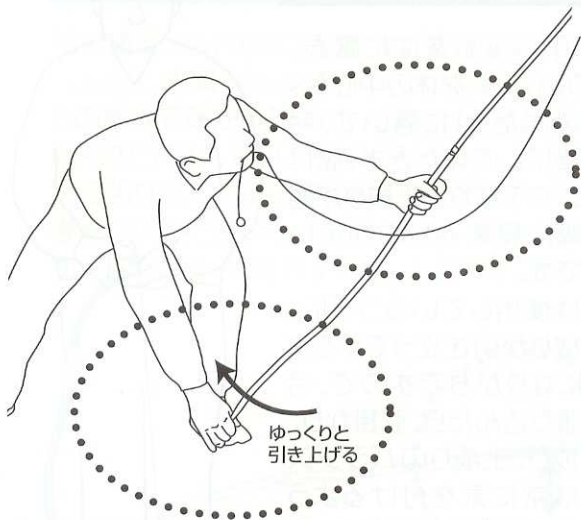
### 弓の張り方

**1** 末弭(うらはず)を柱等に取り付けてある弓張りに、自分で最も張りやすい位置に固定します。

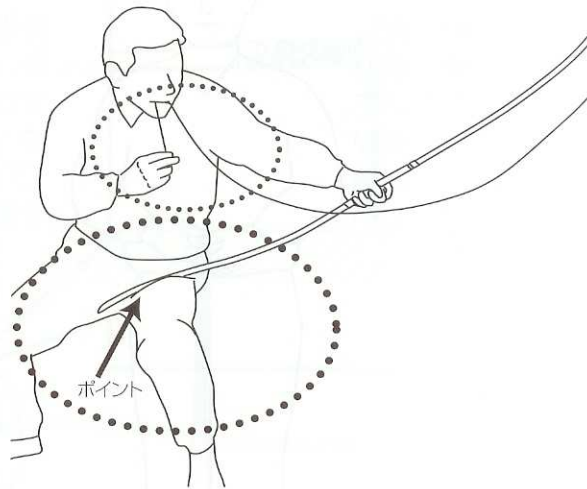
**2** 本弭(もとはず)を右手で、握りを左手で持って、本弭(もとはず)をできるだけ下げ下します。



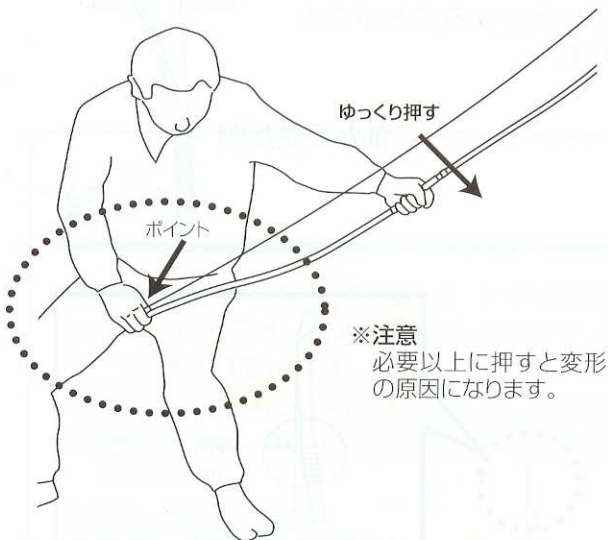
**3** 左手を伸ばしてしっかり握り、右手で本弰(もとはず)をゆっくりと真っ直ぐに、ぐらつかせないように手前に引き上げます。



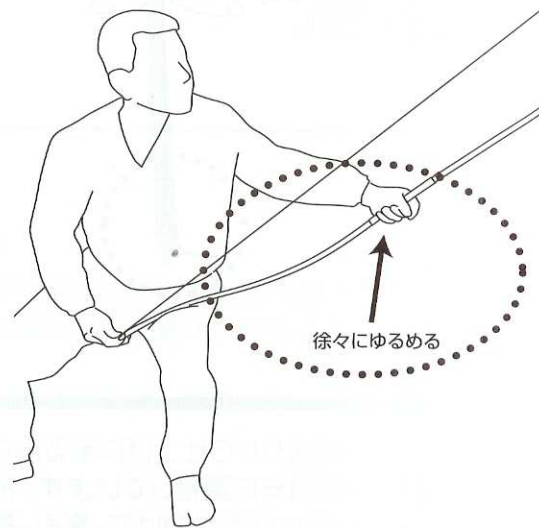
**4** 引き上げた本弰を下関板(しもせきいた)の少し上にある引掛節(ひっかけぶし)あたりを腿(もも)の付け根にかけて、しっかり固定し、弦を張る準備をします。



**5** 左手握りをゆっくり押すようにして、下弦輪(しもつるわ)を本弰(もとはず)にかけます。



**6** 左手握りの力を徐々に緩め、弓を張ります。



**7** 弓を張ったら弦掛(つるが)かり、張顔(はりがお)、弓弰(きゅうは)を調べます。  
→P3、4

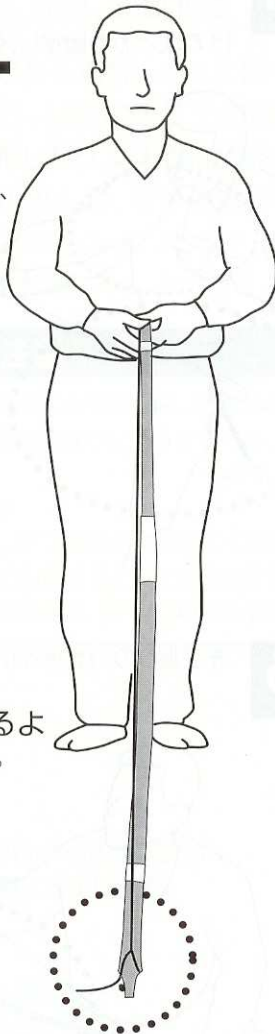
### 弓を張る上での注意

- 押して張るというより、本弰(もとはず)をゆっくり引き上げるようにして張ることを念頭においてください。
- 裏反り(うらそり)の強い弓は、上関板(かみせきいた)の切詰藤(きりつめどう)のところを紐で縛って張り込むと、ひっくり返りにくくなります。
- 弦をかけるとき、必要以上に弓を押し曲げないようにしてください。必要以上に押すと変形の原因になります。

# 竹弓の取り扱い方

## つるが 弦掛かり

末弭(うらはす)を床に置き、本弭(もとはす)を体の中心(へそのあたり)に置いて、そのまま見たとき、弦が弓の握りのところで右端に掛かっているならば正しい弦掛(つるが)かりです。

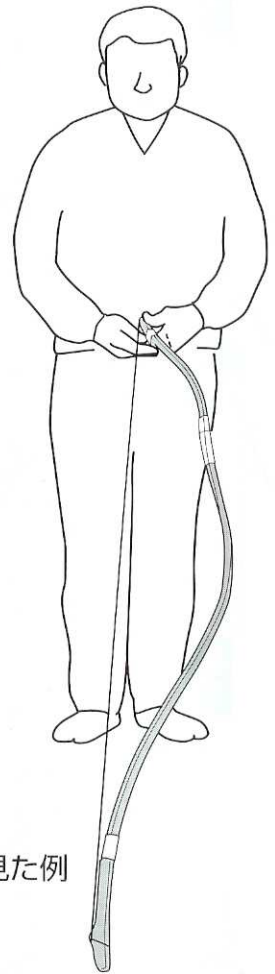


弦輪は真ん中になるようにかけてください。

## はりがお 弓の張顔

末弭(うらはす)を床に置き、本弭(もとはす)を体の中心(へそのあたり)に置いて、弓を横にして見たとき、弦に対して下成りと上成りが同じ幅に見えるのが良い弓です。

弓は使用しているうちに、下成りが引き立ってくるようになりがちですので、弓を張り込んだら、弦掛かり、下成り、上成りのバランスには常に気を付けるようにしてください。紙に弓型を写して、それに合わせるような育て方を行うことによって、さらに充実した弓型を会得することができます。

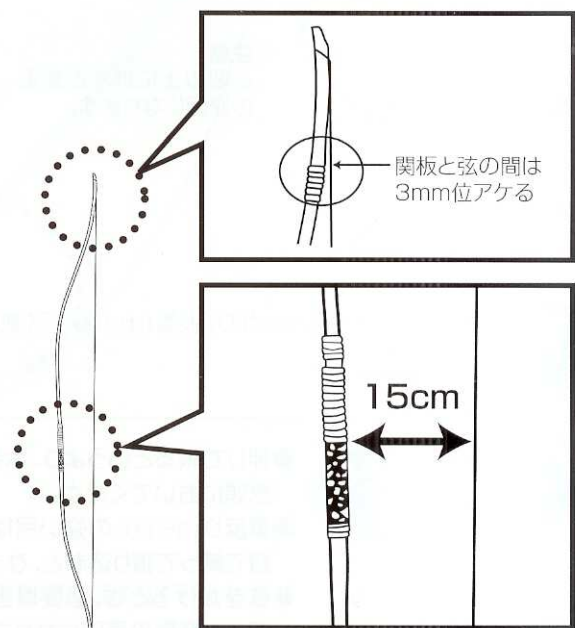


前から見た例

## きゅうは 弓弭

弓を製作する時点で、荒張りから仕上げに至るまで、弓弭(きゅうは)は15cmを目安に調整しています。特に、新弓の間は常に弓弭には気をつけて、索引、巻ワラ射、行射されるとき、15cm以下にならないように注意してください。

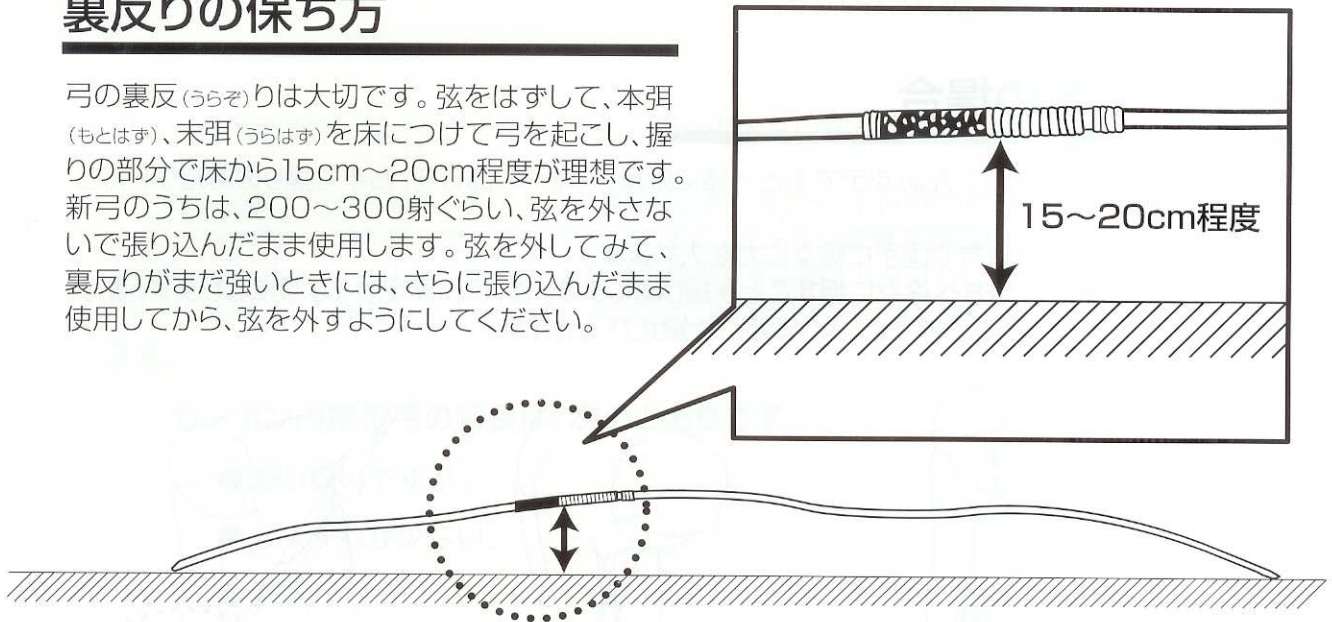
弓弭が低くなったまま使用していると、癖がでやすだけでなく、ひっくり返って、弓を破損させる原因ともなります。



うらぞ

## 裏反りの保ち方

弓の裏反(うらぞ)りは大切です。弦をはずして、本弭(もとはず)、末弭(うらはず)を床につけて弓を起こし、握りの部分で床から15cm~20cm程度が理想です。新弓のうちは、200~300射ぐらい、弦を外さないで張り込んだまま使用します。弦を外してみても、裏反りがまだ強いときには、さらに張り込んだまま使用してから、弦を外すようにしてください。



にべゆみ

## 鰐弓

鰐(にべ)弓とは、鹿皮を薄く削って、約2日間熱しながら溶かして作ったニベといわれる接着剤を用いた弓のことです。古来から伝わる技法で、弓の性質としては優れており、より長い間枯らした弓ほど、珍重されています。

鰐弓の良さは、第三から引き分け、会に至るまで滑らかなことで、感触が違います。また、鰐弓特有の復元力があり、裏反りを保つことができます。

### 使用上・管理上の注意

- ① 接着剤の性質上、寒暖によって弓力が違いますので、秋から冬にかけて引く弓と、春から夏にかけて引く弓は、分けて使用してください。
- ② 車上など高温になる場所に放置しないでください。
- ③ 鰐弓は湿気を呼びやすいので、湿気の少ない場所に保管してください。
- ④ 直射日光に当てないようにしてください。
- ⑤ 虫がつかないようにしてください。

# 弓の矯正法

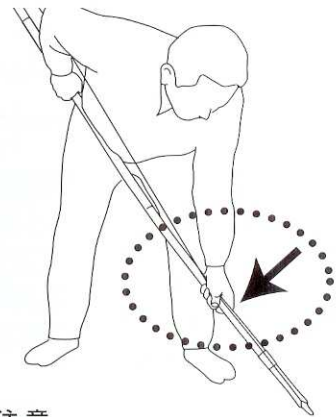
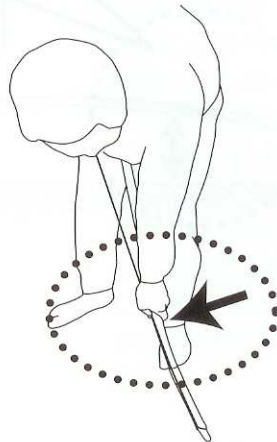
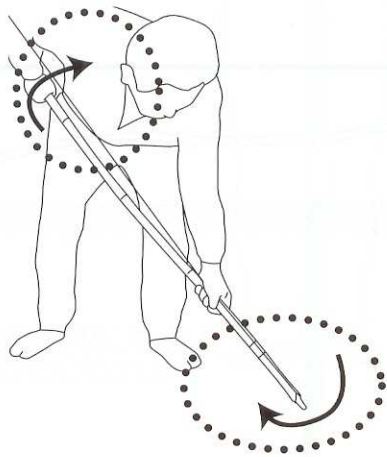
竹弓は、使用しているうちに、いろいろな癖が出てくる場合があります。  
その主な矯正法は、次のとおりです。

## ひめぞり いりき 姫反の入木の場合

末弭(うらはす)を床につけて、左必ず手で弦と一緒に姫反(ひめぞり)の部分を、右手で握りのあたりを持ちます。

タオルを絞るような気持ちで両手に徐々に力を入れます。

そのまま、左手を右の方へ徐々に押すことを繰り返します。これで、安定するようになります。左手甲に左足の脛(すね)を当てて押すと、より安定した矯正ができます。



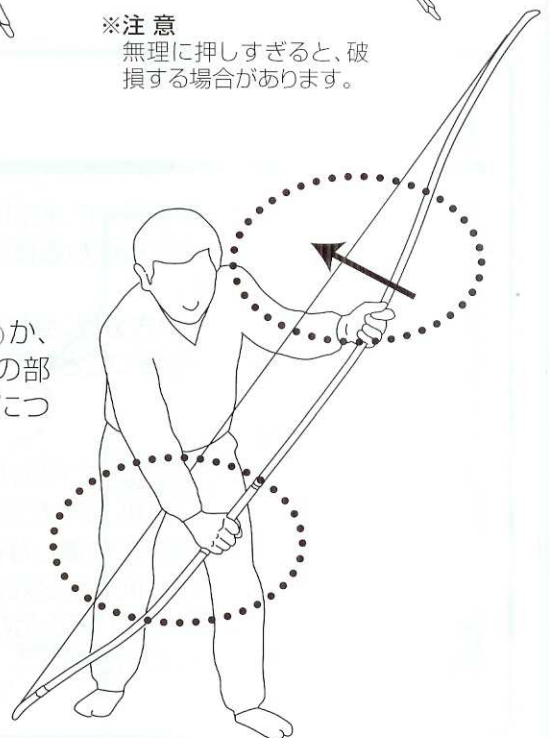
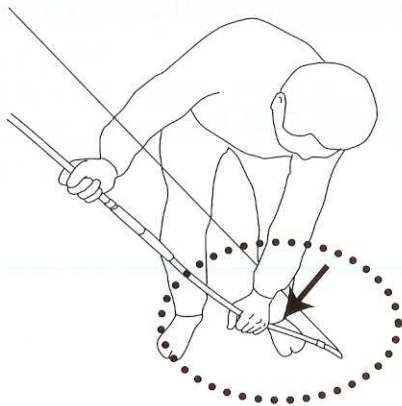
※注意  
無理に押しすぎると、破損する場合があります。

## ひめぞり でぎ 姫反の出木の場合

入木の場合と反対の方向で同じように行います。

## したな 下成りが引き立っている場合

曲がりの一番強い下成り部分を押さないで、乙腰節(おとこしぶし)か、小反節(こぞりぶし)を押すようにしてください。または、上成りの部分を左手で持ち、右手で握りの所を持って本弭(うらはす)を床につけて、右手を徐々に押して矯正します。



◆注意  
自分で矯正する自信のない方は、お買い求めの弓具店あるいは製造元の弓師にご相談ください。